

光・量子ビーム科学連携推進室 第4回ワークショップ

大学が主体的に関わる中性子・放射光施設の意義と大学の役割

テーマ

放射光と中性子の相補利用による量子ビーム科学のあり方は以前から考察されてきた。今、東北放射光施設計画やサイクロトロン・ラジオアイソトープセンターの中性子ビーム計画があり、東北大学でも今後の研究の広がりが期待できる。そのため、それぞれの計画が主に目指す科学分野でのユーザー利用にとどまらず、運営を含めた大学の組織的な関わり方を検討することの意義が認められるであろう。そこで、これまでの光・量子ビーム科学連携推進室ワークショップでの大型施設を念頭に置いた議論を踏まえて、今回は大学の足下に量子ビーム施設として中性子施設と放射光施設を近隣に持つ意義を様々な角度から概観したい。

日時：10月27日（月）午後1時半～28日（火）正午

場所：金研講堂

10月27日

13:30-13:35 開会の挨拶：伊藤貞嘉（光・量子ビーム科学連携推進室委員長）

13:35-13:45 趣旨説明：医療研究の視点から

谷内一彦 サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター長：

座長：

13:45-14:25 基調講演「Small Science at Large Facilities」

藤井保彦（東京大学名誉教授）

14:25-14:55 酒見泰寛（サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター）

CYRIC サイクロトロンの高度化計画

14:55-15:25 「3GeV 高輝度放射光（SLIT-J）計画の概要」

濱 広幸（電子光理学研究センター）

休憩(15分)

(講演 20分、質疑 5分)

座長

- 15:40-16:05 坪井康次（筑波大）
「加速器中性子源を利用した BNCT への取り組み」
- 16:05-16:30 大山研司(AIMR)
「大学と施設が共同建設する中性子散乱装置 POLANO の概要と現状」
- 休憩（10分）
- 座長
- 16:40-17:05 鬼柳善明（名古屋大）
「日本の小型加速器中性子源の現状と北大での実績」
- 17:05-17:30 林 真琴（茨城県）：
「産学官の連携による中性子の産業利用の促進 — 大学への期待」
- 18:00- 懇親会 金研会議室

10月28日（

（講演20分、質疑5分）

座長：

- 9:00-9:25 木村宏之（多元研）
「中性子・放射光大型施設を利用した大学における研究と教育
— 大学共同利用による施設との連携 —」
- 9:25-9:50 藤田全基（金研）
「大学 — 多体相関の中で”肝要”を見抜く力を育成する —」
- 9:50-10:15 八木伸也（名古屋大学）再依頼中
「比較的大学に近い放射光施設への取り組みについて：あいち SR を例にして」

休憩 15分

座長：谷内先生

- 10:30-10:55 大竹淑恵（理研）
「小型中性子源から発するものづくり現場とのつながり」
- 10:55-11:20 福田 寛（東北薬科大学）
「加速器を用いる癌のホウ素中性子捕捉治療(BNCT)計画の現状と東北大学の可能性」

11:20-11:45

百生 敦 (多元研) :

「X線位相イメージングの現状と加速器の立ち位置」

11:45-

Closing 小谷 AIMR 機構長